

釧路市中央図書館

開催日時	2018年(平成30年)10月23日(火) 10:30～11:57
会場	7階多目的ホール
参加人数	40人
出席議員	渡辺 慶藏 議長 大越 拓也 議員 (議会運営委員会副委員長) 月田 光明 議員 (総務文教常任委員会委員) 宮田 団 議員 (経済建設常任委員会委員) 岡田 遼 議員 (民生福祉常任委員会委員) 森 豊 議員 (石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会委員長) 大澤 恵介 議員 (都心部市街地整備特別委員会副委員長) 松尾 和仁 議員 (議会広報特別委員会委員長：司会)

意見	<p>まちづくりには人を大事にする形の事業がなければならないと思っているが、人を増やしていくことを釧路市としてどのように考えているのか。長期滞在者が定住できるような、若い人たちがこのまちに魅力を感じて、働ける環境があるというような仕組みづくりを推進していく必要があるのではないか。もっとお金をかけてでも人口や雇用を増やす施策に大胆な形で取り組んでほしい。</p>
月田議員	<p>釧路市は、人口減少を最小限に食い止めるために「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したが、こういった施策を講じても人口を維持することは困難である。釧路市は長期滞在者に人気が高いため、釧路のファンを増やしていくことで定住につなげていく施策を推進している。また、観光や食などの釧路の強みや資源を磨き上げ、若者が働く上で魅力ある都市になるような取り組みを進めている。限られた予算ではあるが、ご意見を重く受け止めて、議会の議論に反映させていきたい。</p>
意見	<p>よく十勝と比べて釧路は連帯感が弱いと言われるが、それが町内会の加入率にも如実に反映されている。連合町内会は、市や教育委員会、宅建協会と協定を結んで、みんなで町内会に入って絆を強めていこうとしているが、なかなか実効が上がっていない現実があるので、議員の皆さんにも町内会を盛り上げるために力になってほしい。</p>

意見	<p>私が住んでいる地域は市営住宅が多いが、今回の胆振東部地震の際に、給水に関する情報がみんなに把握されていなかった。情報が伝達されても、高齢者は水を汲みに行くことが難しいので、せめて自分の棟の前まで給水車が入ってくると少し楽ではないかという話があった。</p>
宮田議員	<p>情報が市民の皆さんのところに十分に行き届いていなかったということは本当に問題であると思っており、9月定例会でも多くの議員から質問がされていたところである。高齢の方には市の職員が家まで水を運ぶなど最大限の対応をしていたと聞いているが、市民の皆さんのさまざまな声を関係部署に伝えながら、今後の改善策を議会としても考えていきたい。</p>

意見	<p>私が住んでいる堀川町では共栄小学校が避難所になっているが、上の階に上がる方法は階段しかなく、車いすなど階段を上がれない方は、みんなで協力して運んで上げなければならないということであった。これは地域住民が考えなければならない問題なのかもしれないが、市のほうでも何か対策を考えてほしい。</p>
月田議員	<p>学校にはエレベーターや車いすを運搬するリフトがあるわけではないので、いざというときには、みんなで力を合わせて上階に運ぶという対応になるかと思う。高齢者や障がい者の避難所における課題は他にもたくさんあり、例えば乳幼児やアレルギー疾患のある方の食事に関する問題は極めて深刻であり、今回の胆振東部地震でも対応が十分ではなかったと聞いている。電気や水の問題も含めてさらに災害に強いまち、また避難のあり方について、引き続き議論していきたい。</p>

意見	<p>今年も灯油1リットル当たりの価格が100円を超え、大変厳しい状況にある。市は以前に福祉灯油制度を実施していたが、それがぬくもり助成金に変わり、その後結局なくなってしまったが、人口が減少している今だからこそ市民生活を守っていくのが行政の本質ではないのか。福祉灯油を復活させてほしいと思っているが、議員の皆さんがどのように考えているのか聞きたい。</p>
渡辺議長	<p>福祉灯油に関しては、議会でも質問や議論がされてきている。今日は各議員個々の考え方までは述べることはできないが、ご意見は市にしっかり伝える。</p>

意見	若い議員は、これまでの経過がわからないと思うが、これを契機に福祉のあり方、市民生活を守るとはどういうことなのかを勉強して、頑張ってもらいたい。
----	---

意見	<p>胆振東部地震の際に情報が十分に伝わらなかったとのことだったが、議員と市民がつながっていることで情報の共有もできると思うので、行政とのパイプ役を議員の皆さんに担ってもらうためにも、住民のところを丁寧に回って地域の声を聞いてもらいたい。</p> <p>以前、市内各所に違法設置看板があったが、議員も市議という立場と政党の立場それぞれあるのかもしれないが、法律や条例でだめなものだめであり、そういうことをしっかり理解してもらいたい。</p> <p>今、西港区の土地のほとんどが売却できているとのことだが、議員がもっと情報発信をし、このまちの優位性を高め、港を活用したまちづくり、産業の育成をしっかりとやってもらいたい。また、屠畜場の建設についても誘致を進めてもらいたい。</p>
----	---

質問	議員の行政視察はどんどんするべきであり、そこで見てきたことを市民や市役所職員に対し情報発信すべきではないか。また、海外の先進事例を視察することも必要ではないか。現在の傾向として、行政視察は増えているのか減っているのか。
----	---

渡辺議長	<p>議会費を活用した常任委員会の視察や、政務活動費を活用した各会派の視察、いずれも視察先や視察事項などをしっかり議論した上で実施し、視察した内容の良い面が釧路の市政に反映されるよう、提言や議論をする中で生かしている。</p> <p>海外視察は現在、基本的には凍結しているが、例えばベトナムや中国など海外産炭国への炭鉱技術研修事業の関係や、台湾との親善関係など、しっかりとした目的がある場合は、その都度、会派代表者会議で検討するなどしており、無条件で実施する形にはなっていないことをご理解願いたい。</p> <p>毎年度、視察先や視察事項など状況が違うので、一概に増減の傾向は言えないが、視察自体は議会としての大事な取り組みであるので、今後も市民に対する情報提供も含めてしっかりと取り組んでいきたい。</p>
------	--

意見	<p>今日は、市から受託している女性求職者就労促進事業のスクール生と来た。スクールの参加者は、今後の女性としての働き方を模索しながら、このまちで元気に自分らしく生きていきたい、子育てをしていきたいと願っている方たちであり、その中で、このような市民に開かれた形の議会報告会というのは大変ありがたいと思うとともに、今後も参加したいと思えるように、よりわかりやすい言葉を使ってもらえればよいと思う。また、今日の会場である中央図書館は、興味があってもなかなか来る機会がない方も多いと思うが、この時間帯の開催であれば非常に参加しやすいと思う。</p>
松尾議員	<p>今年の議会報告会は、釧路地区3カ所と音別地区の計4カ所で開催する。また、今年から初めての取り組みとして、特定のテーマを設定した形での意見交換会としても実施しており、11月16日には阿寒農協女性部の皆さんと、阿寒町のまちづくりというテーマで意見交換を行う予定である。来年に改選期を迎えるが、引き続き充実した議会報告会、意見交換会となるよう取り組んでいきたい。</p>

質問	<p>市内の小中学校で取り組んでいるコミュニティ・スクールについて教えてほしい。また、学校支援ボランティアに参加資格はあるのか。</p>
大越議員	<p>コミュニティ・スクールでは、保護者や地域の方々が学校運営に参画し、校長が作成する学校運営の基本方針を承認したり、教職員の任用に意見を述べるができることから、当初は少し抵抗感があったのだが、いざ何校かで導入してみると、学校に設置された「コミュニティ・スクール協議会」で、地域の実情や学校内部の状況など、地域住民と教職員が膝を交えて話す中で、互いに理解が深まり信頼関係が出来ていった。その結果、それまで教職員で行っていたことをPTAや町内会でもできるのではないかというふうに、学校を核に地域を盛り上げていこうというような機運になっていき、今は指定校がどんどん増えている状況である。</p>
月田議員	<p>学校支援ボランティアについては、その学校に通っている子どもの保護者や、地域の町内会の方など、学校とさまざまな関係性を持っている中で積極的に入ってきてもらうことを目指しており、特別な参加資格があるわけではない。</p>

意見	働き方改革と言われているが、市役所の勤務時間の状況、有給休暇の取得率がどうなっているのか、市議会としてチェックしてほしい。また、官公庁による障がい者雇用の水増しについても非常に問題があると考えており、これに関しても市議会のチェックが必要だと思う。
月田議員	市役所職員の勤務時間等の法令順守の問題については、今後、業務の体制やあり方について庁内全体の見直しが必要だと思うし、市議会としても今まで以上にチェックしなくてはならないと考えている。障がい者の法定雇用率については、これまでも市役所はずっとクリアしているが、その内容に誤りがないのかどうか、市議会としても改めてチェックする必要があるのではないかと考えている。有給休暇の取得については、以前から取ることができるのに取っていないという状況があるが、市議会が取得を促す以上、休暇を取っても業務に支障がない体制にしていかなければならないと思う。
意見	無駄な仕事を省いたり、必要のない部署をつくらないようにしてはどうか。
月田議員	市役所もこれまで、行政改革で相当人を減らし、外部化できるものは外部化し、かえってあまりにも外に任せ過ぎたせいで市役所の中に専門家が少なくなり、まともな話ができなくて困っているという指摘もある。単純に人や仕事を減らすことが市民サービスにつながるとは限らないので、そのバランスを取りながらも、国の働き方改革の流れに沿った市役所改革ということについて、市議会としてもしっかり提言し、厳しくチェックしていきたい。

質問	若い議員の立場から、町内会活動に対する考えを聞かせてほしい。
岡田議員	私は生まれ育った地域に今も住んでおり、町内会から根強い応援をもらっているし、私自身も町内会を愛しているので、町内会活動などにも積極的に参加している。若い人は町内会に加入する意味がわからないという方もいるので、町内会は何のためにあるのかということをしっかり伝えながら、町内会活動の促進を図っていきたいと考えている。